

# 「環境に配慮した生前整理」相談受けます！ ～市民のニーズにマッチした情報提供や不要品の受け入れ～

NPO法人 環境り・ふれんず 代表理事 ひがし ひろ  
札幌市リサイクルプラザ 統括 **東 飛郎**

## 1. ストックごみの問題に取り組む きっかけ

札幌市内の空き家や高齢者の単身世帯の増加に伴って近い将来「ストックごみ」が雪だるま式に増えていくのは予想できました。ではどうすればいいのか？と想像していたところ2016年1月に廃棄物資源循環学会北海道支部のセミナーのテーマが「生前整理・遺品整理など高齢化社会から見えるごみ問題」だったので、当団体が独自に情報収集した「高齢者が抱えるごみ分別とごみ出しについて」の調査結果を発表させてもらう機会をいただきました。その際に、遺品整理士や遺品整理業者の方々とお会いし、その後さまざまな場面で協力していくことになり、その甲斐あって、今では当団体の正職員4名全員が遺品整理士の資格を有するまでになりました。



廃棄物資源循環学会北海道支部セミナー

## 2. 家の片づけをテーマにした 講演会の開催

2017年3月に、札幌市の「さっぽろスリムネット」主催による、NPO法人環境り・ふれんずが企画運営したスリム

ネットフォーラム「元気なうちにお家をお片づけ」では、定員200名の会場に入りきれないほどの人が集まりました。当団体と協力体制のある整理収納アドバイザーさん、ならびに遺品整理士・事業者の方に、片づけのコツなどについて講演をいただいたのですが、その後の市民の質疑応答では時間的に答えられないほどの質問も集まり、関心の高さに改めて驚きました。



第10回さっぽろスリムネットフォーラム  
2017年3月

## 3. 今後の取り組みとして

高齢者またその子ども世代の方々は、おそらく一度は自宅（実家）にある物の整理を考えたことがあると思います。しかし、「方法がわからない」「費用の心配」、特に「その物に対する思い入れ」などから実際に行動するまではいかない方が多いのです。

札幌市リサイクルプラザには、ご家庭で不要になった日用品を持ち込むことのできるリユースコーナーがあり、リユースショップでは売れないコップ1個から

## 団体紹介 NPO法人環境り・ふれんず

NPO法人 環境り・ふれんずは、ごみ減量やリサイクルを推進し、循環型社会を構築する目的で、2003年に設立されました。ECOカフェマイカップの運営、容器包装の簡素化を進める活動、古着・古布を適正に再利用するファイバーリサイクルの活動、環境イベントの企画運営など多角的な活動を行っています。また、受託事業として札幌市リサイクルプラザを指定管理者として運営しています。2000年8月に開設した札幌市リサイクルプラザは、「家庭から出るごみの減らし方」を、



ECO カフェマイカップ



フリーマーケット

市民に啓発している札幌市の普及啓発施設で、年間約6万人の方が訪れます。主な受託事業として、リユース家具・自転車の抽選販売、リユース食器の普及、日用品の再利用促進事業、おもちゃの修理、年間100回以上開催する教室・講座・講演会、情報誌の発行、市民参画型イベントの開催などを行い、自主的な活動としてはフリーマーケットやエクスチェンジ（洋服の交換会）なども積極的に行っています。その中で、内容を日替わりで変更して、ごみについての相談を受けるコーナーがあり、昨年から「環境に配慮した生前整理」相談を、実際に遺品整理士の方を招いて不定期で開催するようになりました。

でも受け入れているので、たいへんご好評をいただき、年間約6万点もの品がリユースされています。最近は生前整理や遺品整理に利用される方も増え、ダンボール何箱分も一度に持ち込まれることも珍しくなくなってきました。また、合わせて資源物を持ち込める回収拠点の情報を提供することで、捨てるしかないと考えていた思い出の品の活用方法を見つけることができるため、整理する方の気持ちの負担を軽くし、さらに環境負荷を軽減することにもなります。現在は遺品整理士の知識を活用して相談を受け、得た情報まとめて、ニーズに沿った小冊子を作成することを検討しています。この確実



札幌市リサイクルプラザ リユースコーナー

に大きくなっていくごみ問題についてどう対応していくか、これからも当団体なりの方法で取り組んでいきたいと思っております。